

生体肝移植ドナーアンケート調査・報告と提言

東北大学大学院医学系研究科
先進外科学分野

里見 進

背景1

- 我が国における生体肝移植症例は2003年12月末で2600例を超え、年間500例程度が実施され、末期肝不全患者に対する救命手段として定着しつつある
- 一方で、健康な患者の家族などから肝臓の一部を摘出する必要がある
- 成人間移植へと適応が拡大する中で、グラフトも側区域・左葉から右葉を用いる症例が増加し、ドナーへの身体的な負担が増加している

背景2

- 一昨年に実施した各移植施設からのデータに基づく調査によれば、約10%強のドナーに何らかの合併症があることが報告され (Umeshita, 2003)、その後国内では初のドナーの死亡が報告された
- ドナーの術後の健康状態については、レシピエントの成績や予後に比べると、まだ十分に検討されてきたとはいえない

目的

- ドナーは単なる臓器提供者としてだけでなく、患者を精神的・経済的にも支える立場でもあることから、単に身体的な健康状態のみならず、精神面や社会的側面も含め、できる限り多面的に現在のドナーの状況を明らかにすることを目的とした
- 更に調査結果を受けて、ドナー及びドナー候補者に対する幅広い支援のあり方について提言することとした

調査対象

2003年12月末までに国内の施設で行われた生体肝移植の全ドナーは2,667名
本報告では、住所不明などによる返送票: 256票を除いた、計2,411名を調査対象
有効回収票: 1,480票、(有効回答率: 61.4%)
回答拒否: 19名

- 回答がづらい、負担: 9名
- 調査方法への不満、疑問: 6名
- 本人が不在: 4名

調査項目

- 先行するドナーへの調査研究を踏まえ、ドナーの方々、移植施設の代表者、社会学、心理学の研究者との討議にて決定した
- 選択式・数値の記入だけでなく、大項目ごとに自由回答欄を設け、御意見や状況の詳細を述べていただくことができるようにした
- 調査票の構成
手術当時の状況と健康状態
ドナーのためのケア体制
手術を受ける前に受けた説明
ドナーになるという意思決定
手術以降の生活
レシピエントの方の状況
生体肝移植という体験を振り返って

結果:回答者の属性・特性1

- 性別: 男性 48.0%、女性 52.0%
- 手術時年齢: 39.3±10.9歳 (18~69歳)
- レシピエントの手術時年齢:
18歳未満(小児症例) 47.6%
18歳以上(成人症例) 52.4%
- 提供先: 子 57.3%、親 15.3%
配偶者 12.9%、きょうだい 11.5%
その他 3.0%
- 提供部位: 左側 40.8%、右側 35.8%
不明 23.3%

回答者の属性・特性2

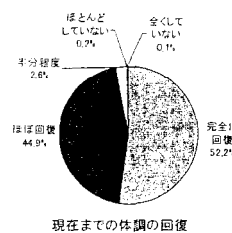
- 再移植・再々移植のドナー:
初回 98.2%、再(々)移植 1.8%
- レシピエント死亡例:
生存 82.9%、死亡 17.1%
- 職業: あり 69.1%、専業主婦 25.0%
学生 2.1%、特になし 3.8%

術後に経験した主症状(経過期間別)

	~3m	4m~1y	現在
傷のひきつれや感覚のマヒ	50.1%	36.1%	18.2%
疲れやすい	35.1%	27.6%	15.7%
腹部の膨満感・違和感	29.1%	17.6%	10.6%
傷のケロイド	26.7%	23.9%	17.0%
食欲不振	18.9%	5.0%	1.3%
胃腸の痛み	16.4%	10.9%	5.6%
下痢や便秘	15.7%	10.5%	9.1%
不安や気分の落ち込み	12.5%	9.6%	5.6%
痒つきが悪い・眼りが浅い	11.1%	7.0%	4.9%
我慢できないほどの傷の痛み	11.0%	1.6%	0.3%
傷から膿がでたこと	10.8%	0.5%	0.0%
頭部の脱毛	8.4%	1.4%	0.7%
吐き気や嘔吐	8.2%	2.2%	1.3%
肝機能検査の異常	7.4%	4.0%	1.9%
胆汁の漏れ	6.8%	0.9%	0.0%

- 術後4ヶ月~1年の期間で
外来通院を要した者:16.7%
- 術後4ヶ月~1年の期間で
入院治療を要した者: 2.0%

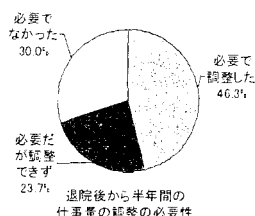
術後の体調回復の程度と要した期間



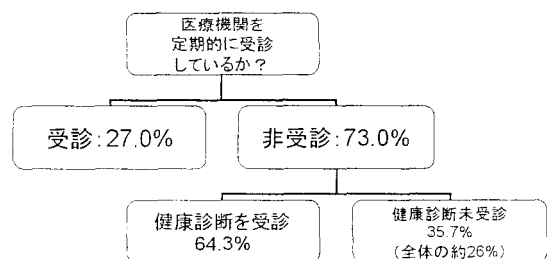
- 回復に要した期間 (中央値)
完全に …… 4ヶ月
ほぼ …… 6ヶ月
半分程度 …… 9.5ヶ月
- 回復の程度が低いと認識している者ほど、回復も緩徐であると捉えている

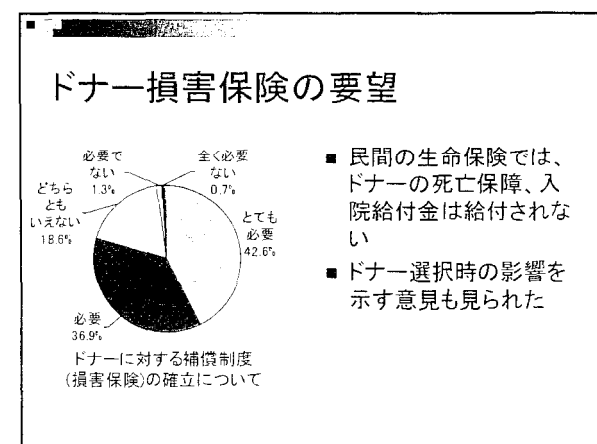
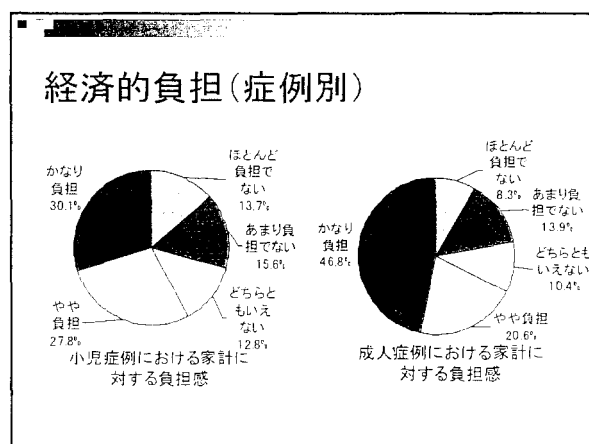
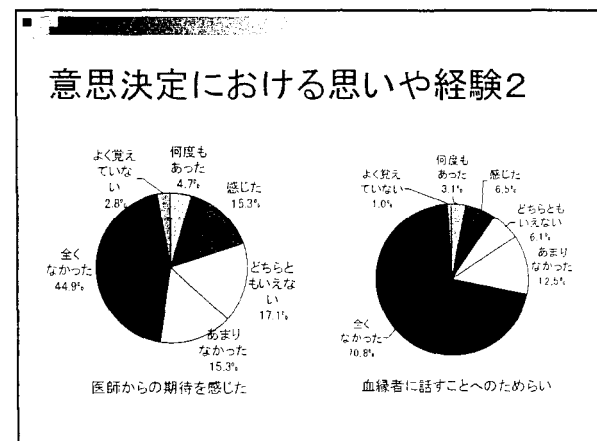
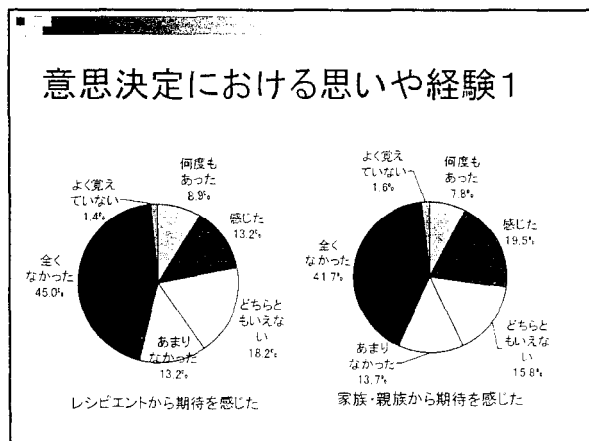
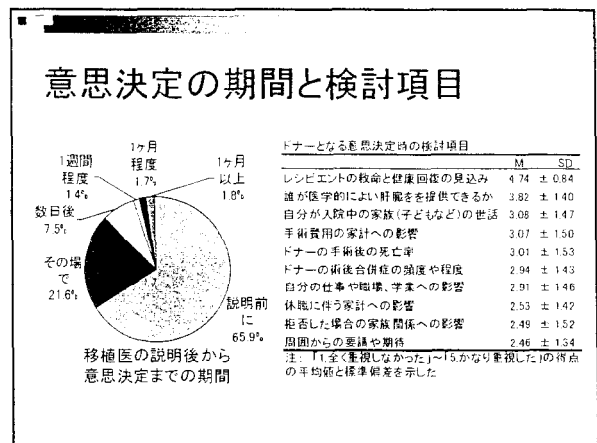
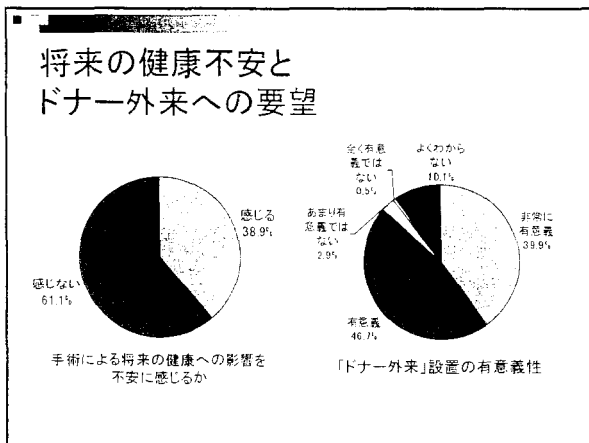
社会復帰:職場・学業、日常生活

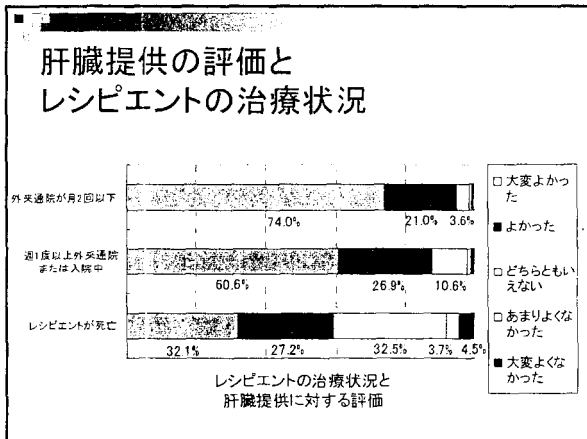
- 有職者、学生の90.6%は術後に復帰。復帰は術後8週間(中央値)
- 術前と同様に仕事、学業、家事などができるようになるまでには、12週間(中央値)



健康管理状況







提言

- 本調査結果からの幾つかの提言
 - 意思決定における他の診療科との連携
 - 経過が思わしくなかったレシピエントへのケアのあり方
 - 退院時指導の改善
 - ドナー外来ネットワーク(仮称)の構築
 - ドナー健康手帳(仮称)の開発
 - ドナー登録制度の拡充
 - その他の社会的・法的問題

退院時指導の改善

- 術後の健康管理についての指導を受けていなかったという回答が多く見られており、今後は少なくとも術後1ヶ月、3ヶ月、6ヶ月、1年は定期的な受診をするよう指導すべきである
- 移植施設から居住地が遠い場合など、近隣の移植施設のドナー外来や地域の医療機関への紹介なども行う必要がある

ドナー外来ネットワークの構築

- ドナー外来を開設する移植施設を増やすと共に、協力の得られたその他の医療機関とともにネットワークを構築し、ドナーの術後の健康管理が円滑に行われるようすべきである
- ドナー経験者による相互支援の要望も高いことから、こうしたネットワークを通じた情報交換、交流活動などにも活用できよう

ドナー健康手帳の開発と発行

- 手術に関する記録、退院時指導の内容、退院後の外来受診・健診記録、ドナー自身による体調の記録などを記載する手帳を全てのドナーに発行することを検討すべきである
- このような手帳の発行は、ドナー自身の意識を高め健康管理に役立つだけでなく、一般の医療機関での円滑な対応にもつながると考えられる

その他の社会的・法的問題

- ニーズの高い「ドナー損害保険」の整備の検討
- ドナー同士の相互支援体制の支援
- 法的検討課題
 - 臓器移植法等における生体ドナーの保護規定
 - ドナー登録制度のデータの臨床での利用